

当たり前の生活を維持するために

福井市足羽中学校3年 柳本 量子

現在、日本では少子高齢化が急速に進んでいます。この影響で働く人が減少し、政府は定年の廃止や延長などの対応を進めています。しかし、少子高齢化が与える影響はそれだけではありませんでした。

二〇一九年十月一日、この日から消費税が十パーセントにアップしました。「なんで消費税が高くなるの。そもそも、なぜ私たちは税を納めなければならないの。」税について何も知らなかった私の率直な疑問です。

気になって調べてみると、驚く情報ばかりでした。私たちが日常の中で利用している公共交通機関や非常時に呼ぶ救急車や警察。それらを当たり前のように、安く利用できたり無料で呼ぶことができたりしているのは、私たちが税を納めているからだそうです。他にも、学校の教科書や風邪をひいたときに病院でみてもらうお金、年をとって介護サービスが必要になった時のお金など、税金は私たち若者から高齢者まで、色々な人に使われています。こんなに身近なところで、私たちが納めた税金がたくさんの人の役に立ち、私たちの生活を豊かにしていると思うと、なんだか誇らしくなりました。もし私たちに税金を納める義務がなくなってしまったら、みんなが平等に教育を受けたり、老後も安心して暮らしたりすることは難しくなるでしょう。税金は、私たちの当たり前の暮らしを当たり前に、そして、より便利にしているのだと思います。

しかし、そんな税金が今減りつつあります。その原因が始めにも取り上げた、少子高齢化です。若者が減少して国の収入が減る一方で、高齢者が増加して莫大な社会保障費が必要になってきます。所得税や法人税の増税では、現役世代に集中した負担がかかるため、高齢者含める国民全体で広く負担する消費税を増税せざるを得なくなります。消費税が十パーセントになったのも、少子高齢化が原因の一つであると考えられています。この情報を知った時、増税と少子高齢化が関係していたという衝撃よりも、これからの未来の不安や恐怖の方が大きかったです。このまま少子高齢化が進んでいけば、消費税が二十パーセント、三十パーセントと増税し続けるかもしれません。もし、増税し続ければ、食料品や日用品の値段も高くなって、生活が便利になっていくどころか、苦しくなっていくかもしれません。

今、私たちにできることは、増税し続ける消費税を何も考えずに払うのではなく、この当たり前の生活を維持できるように、一人一人が税についてよく学び、無駄にしない努力をすることです。互いを思いやり、国民みんなが心豊かに暮らすための税であってほしいです。